

株式会社レゾナック・ホールディングス 2023年1Q 決算説明会 Q&A要旨

日時：2023年5月15日（月）17:30～18:30

説明者：取締役 常務執行役員 CFO 染宮 秀樹

*内容は、開催日時点の情報に基づいております。

【全社】

Q 決算説明資料 P15 の「構造改革の推進」スライドについて、時間軸と効果を教えてください。

A HD メディアの生産規模および人員規模の最適化は、来年度から二けた億円規模の固定費削減効果を見込んでいる。モビリティの構造改革は、構造改革推進室を中心に実行計画策定を進めており、改善までにある程度の時間を要する施策もあるが、2025年に収益体質を正常化することが目標。赤字製品の撲滅は、2月の決算説明会で、不採算事業の構造改革により、2025年までに EBITDA マージンで 2% 強改善する旨ご説明したが、本施策でこの目標を達成することを見込んでいる。

【半導体・電子材料セグメント】

Q 23年2Qの営業利益は弱含みに見えるが、1Qから2Qにかけての営業利益の変動要因について教えてください。

A 1Qに計上した HD メディアの懸念在庫関連の損失は、2Q以降にも一部織り込んでいるほか、半導体材料では、需要は緩やかに回復すると見ているものの、先行投資としての設備の完成に伴う減価償却費等の固定費の増加も影響している。

Q 23年下期の営業利益も弱含みに見えるが、上期から下期にかけての半導体・電子材料セグメントの営業利益の変動要因を教えてください。

A HD メディアにおいて、固定費負担の大きい在庫を下期に消化することや、半導体材料における固定費負担の増加等を下期の計画には織り込んでいる。

【モビリティセグメント】

Q モビリティは抜本的な見直しを進めていく方針とのことだが、下期計画に効果をどのように織り込んでいるのか。

A 赤字製品撤退を方針として掲げているものの、生産終了までには一定の時間が掛かるものもあり、ある程度の時間が必要。本格的に効果が見えてくるのは来年度以降になる。

以上

*本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。なお、法令に定めのある場合を除き、当社はこれらの将来予測に基づく記述を更新する義務を負いません。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績に影響を与える要素には、国際情勢、ナフサ等原材料価格、黒鉛電極等製品の需要動向および市況、為替レートなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。